



JREU TOKYO 業務部速報



2026.10.07 No.003

発行：JR東労組東京地本 業務部

「渋谷事業本部の運営体制の見直しについて」

提案を受ける！その①

JR 東労組東京地本は、会社より表題の提案を受けました。会社は提案理由として『グループ経営ビジョン「勇翔2034」の実現に向け、効率的でより生産性の高い業務執行体制を構築し、当社の持続的な成長を実現するため』としています。

- ・実施期間…渋谷事業本部(渋谷駅・大崎駅)
- ・実施内容…(渋谷駅)埼京・湘南新宿ラインのホームに車掌用 ITV を整備し、終日「乗降終了合図の省略」。
(大崎駅)①第2ホームでの遺失物取扱業務を業務委託。②警備員による車内貫通業務の拡大。
- ・実施日…2026年12月1日

体制について

渋谷駅 一般変形が△2(－2日)、大崎駅 一般交代が△1(－1徹)

提案時の主なやり取り(渋谷駅)

組合	会社
今施策で体制が変わるのはホーム業務(輸送)か？	そうだ。 (渋谷駅)一般5テ2日が一般5テ。 (大崎駅)輸送3テが輸送2テになる。
(渋谷駅)ホームでの乗降終了表示省略だが、ホームに常駐はしているのか？	全時間帯の常駐は考えていない。通対時には社員を配置するが、立哨するのか、事務室にいるのかは検討している。それ以外の時間の巡回なども検討している。
朝夕の通対はどうするのか？	通対については通対としてなのか巡回としてなのか継続含め検討している。
(渋谷駅)停止位置は変わらないのか？	停止位置は変わる。
なぜ停止位置が変わるのか？	ホームドア整備によって停目移設工事が発生する。 湘南新宿ラインのG車位置を15両と10両を統一させるなどドアの開口口に合わせる。

ITV の整備により、全ての編成にて車掌が単独でドアを開扉することができるため乗降終了表示の省略ができると説明！

その②へ続く